

書評

「作業療法ジャーナル」56巻8号 (2022年増刊号)

こんなときどうする？ 運動器の作業療法ナビ

B5判・240頁
定価4,400円(本体4,000円+税10%)
三輪書店刊, 2022年



[評者] 沖田 実 長崎大学生命医科学域(保健学系)

小生が理学療法の仕事に就いた平成初期は、“運動器疾患といえば理学療法の対象”という認識で、作業療法の対象は唯一、“手の疾患”，いわゆるハンドセラピー領域のみと捉えられていた印象がある。しかし、当時の卒前教育でも整形外科に関する講義は理学・作業療法学の共修科目で、時間(単位)数も同等であったことを踏まえると、運動器疾患全般を通じて作業療法の対象になると思われるが、実際の臨床は異なっていた。

一方、昨今の著しい高齢化の進展に伴い転倒・骨折や関節疾患といった運動器の問題が注目され、これらが内部疾患や神経疾患に合併したり、逆に運動器疾患を抱えた高齢者に内部疾患などが合併するといった、“多疾患併存・重複障害”への対応は喫緊の課題となっている。つまり、このような背景からようやく運動器疾患全般を通じて作業療法の対象と認識されるようになった。しかし、運動器に対する作業療法の専門的内容を網羅した学修資材は少なく、そのこともあり今回「こんな

ときどうする？ 運動器の作業療法ナビ」というタイトルの総説論文集が作業療法ジャーナルの増刊号として発刊されたのではないかと考えている。

簡単に内容を紹介すると、第1章では運動器の解剖・生理に関する基礎医学的知識が整理され、第2章では疼痛や関節拘縮、筋力低下、感覚障害など、運動器に生じやすい症候の病態やメカニズムが解説されている。そして、第3章では脊柱や上・下肢の代表的な13の運動器疾患に加え、末梢神経損傷や関節リウマチ、四肢切断を含めた16疾患の作業療法実践が症例を交えて解説されており、第4章では作業療法士の立場からの地域包括ケアにおける運動器対策や自動車運転支援が紹介されている。そして、最後の第5章では内部疾患や神経疾患、認知症などにおける運動器の問題が解説され、冒頭で述べた多疾患併存・重複障害への対応が取り上げられている。

このように、本誌は運動器に関するOTの専門誌として十分すぎる内容となっており、読者層として

臨床経験3年目までが想定されていることから、一読しただけで内容が理解できるようまとめられている。また、総説論文集であることから教科書のように順序立てて読む必要もなく、興味ある論文をピックアップできる点は雑誌増刊号ならではのメリットである。加えて、作業療法の専門誌だけあって“手”に関する記述は詳しく、理学療法士にとっても有益な情報が満載である。

さらに、運動器疾患を診る際、理学療法士は“心身機能・構造”といった問題に焦点を当てがちで、社会参加活動を営むための能力を獲得させるためには現状の理学療法(戦略)では限界があるとの指摘もある。一方、作業療法士の場合は“活動”や“参加”の問題にも焦点を当て、生活行為マネジメントという戦略で運動器疾患を診ていることが本誌で理解でき、現状の理学療法(戦略)に不足している点を探索するうえでも参考になる。このように本誌は運動器の問題を多職種で考えていくきっかけにもなる良書と言えよう。